

**情報の社会的意義が分かる中学校社会科公民的分野の授業開発**  
～単元「なぜ Amazon のような企業が業績上位を独占しているのか～  
の開発を手がかりに～

令和 3 年度入学  
熊本大学大学院 教育学研究科  
教職実践開発専攻 教科教育実践高度化コース  
土井 一生

**実践報告書要旨**

本研究の目的は、情報化を情報技術の発達の側面だけでなく、情報の社会的意義を理解することで、生徒が現代社会の特色を理解し、社会の中で情報が果たす役割が大きくなることとはどのようなことか理解することができる授業を開発することである。

平成 29 年版中学校学習指導要領解説社会編では、情報化について、産業や社会の構造的な変化などと関連付けることが求められている。しかし、現行の情報化の学習においては、情報化に伴う情報技術の発達による生活の変化という一側面を学習させているにすぎず、情報化による社会の変化まで取り扱っていない。現代日本の社会ではどのような特色が見られ、後の公民的分野の導入部と位置付けられている現代社会学習で情報化による社会の変化を取り扱わないことは、生徒に現代社会を理解させる上で、学習指導要領で身に付けることとされている、現在と将来の政治、経済、国際関係に与える影響について多面的・多角的に考察し、表現するための学習が行えず、現代社会を十分に理解することができないのではないだろうか。また、上記したように情報化を学習することは公民的分野の導入としての側面も強いため、情報化を上手く利用し成功した企業を取り扱うこと、後に経済の分野を学習する導入として生徒に関心をもってもらう必要があると考えた。

以上の問題意識から、現代社会の情報化を学習する上で、Amazon という一企業が社会的に価値の高まっている現状を捉えることで、情報化による社会の変化を学習する授業開発を行った。

本研究は次の 2 点の意義をもつ。

1 点目は、個人情報の入力など自らの意思で発信している情報以外に、私たちが自覚せずに発信している情報の価値が高まっていることについて取り扱ったことで、社会の中で情報が果たす役割が大きくなることとはどのようなことか、生徒たちに考察させることができたことである。2 点目は、Amazon という企業を具体例として扱うことで、生徒が情報化を単に情報技術の発達と捉えず、情報を組み合わせ、分析することで消費者のニーズに応えることができる企業が台頭するという情報化による現代社会の変化を理解させることができたことである。